

授業科目名	体育	教員名	日高 正博 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	KY0106	配当年次	1年前期		幼稚園教諭	選択
授業形態	演習				保育士	選択
単位数	2単位				こども音楽療育士	
科目					情報処理士	
施行規則に定める科目区分						
一般目標	小学校体育科で扱う運動および保健に関する技能や知識を獲得する。					
到達目標	(1)実技、講義を通して、小学校学習指導要領体育科の領域（運動、保健）における、体育、健康に関する基礎的知識や技術を獲得する。 (2)小学校体育科授業における運動学習時の安全指導に関する知識を獲得する。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	小学校における運動領域の内容について実践を通して理解を深めていく。具体的には、小学校学習指導要領に示された種目の特性と運動の構造を理解し、基本的技術を実践を通して身につけ、指導者としての技能を高める。また、健康増進および体力の向上に関する基本的な知識に加えて、身体活動の場における事故やけがの防止や援助・指導の工夫などについても運動実践と関連させながら学ぶ。 アクティブラーニングとして、振り返り、小テスト、レポートなどを取り入れる。また、授業者の小学校教員としての経験を実技指導法等に活かしていく。					
履修条件・注意事項	実技の授業であるため、運動のできる服装と体育館シューズを持参すること。また、安全面からアクセサリなどは外して授業に参加すること。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション・体育授業における技術〈講義と実技〉（体育館） 本授業の全体像を捉えるとともに、体育科授業の中核的教育内容である「技術」について概念と具体的内実を講義する。また、本授業の進め方等について理解するとともに、簡単な体ほぐし運動を通して、新しい仲間との関係づくりをする。（目標(1),(2)）</p> <p>第2回：体ほぐし運動・体づくり運動（1）〈実技〉（体育館） 体ほぐし運動について具体的な運動を行いながら、本領域の目的等について理解する。また、体づくり運動についてリズムカルな運動の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第3回：体づくり運動（2）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動(短縄跳び(返し跳び)、長縄跳び(かぶり縄とむかえ縄))の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第4回：体づくり運動（3）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動(短縄跳び(一回旋一跳躍と一回旋二跳躍)、長縄跳び(八の字跳び、2回跳んで出る))の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第5回：体づくり運動（4）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動(短縄跳び(二人で1本の縄を使って)、長縄跳び(ダブルダッチ))の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第6回：体づくり運動（5）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動(ボール)の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第7回：体づくり運動（6）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動(体操用棒、フープ)の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第8回：体づくり運動（7）〈実技〉（体育館） これまで用いた用具(縄、ボール、フープ、棒)を組み合わせた運動(ボール)の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1),(2)）</p> <p>第9回：ボール運動（1）〈実技〉（体育館） ネット型ゲーム(連携型：バレーボール)に関する知識やゲームの構造について理解するとともに、基礎的スキルを身に付け、ゲームを楽しむことができる。（目標(1),(2)）</p> <p>第10回：ボール運動（2）〈実技〉（体育館） ネット型ゲーム(攻守一体型：バドミントン、テニス)に関する知識やゲームの構造について理解するとともに、基礎的スキルを身に付け、ゲームを楽しむことができる。（目標(1),(2)）</p>					

	<p>第11回：ボール運動（3）〈実技〉（体育館）          ゴール型ゲーム（バスケットボール、サッカー）に関する知識やゲームの構造について理解するとともに、基礎的技能を身に付け、ゲームを楽しむことができる。（目標(1),(2)）</p> <p>第12回：器械運動（1）〈実技〉（体育館）          跳び箱を使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。（目標(1),(2)）</p> <p>第13回：器械運動（2）〈実技〉（体育館）          マットを使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。（目標(1),(2)）</p> <p>第14回：器械運動（3）〈実技〉（体育館）          マットを使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。（目標(1),(2)）</p> <p>第15回：器械運動（4）〈実技〉（体育館）          マットを使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。（目標(1),(2)）</p> <p>学期末試験（スキルテスト）</p>
授業外学修時間の確保について	<p>スキルテストに向けての練習をしておくこと。</p> <p>毎授業後の感想を提出すること。</p> <p>最後のレポート作成に向けて、各回の技能のポイント等を記録しておくこと。</p>
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験（スキルテスト）60%，レポート20%，意欲・関心・態度20%</li> <li>・スキルテスト時に口頭にてフィードバックする。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは特に指定しないが必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導要領</li> <li>・小学校学習指導要領解説体育編</li> </ul>
担当者からのメッセージ	<p>高校までの保健体育の授業は生涯スポーツを志向した授業であったが、本授業は教育学部の専門科目であるので、高校までの体育の授業とは性質が異なる。将来出会うであろう子ども達のために、自身の実技能力と指導力を高めるための学修に真摯に取り組んでほしい。</p> <p>実技が中心の授業である。指導者としての実技能力を高めようとする過程で、その技術の構造を理解するとともに、動きを獲得するうえで必要なコツやカンといったもの、さらには子どもたちがつまづいてしまう点等にも気づいてほしい。</p>
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間に対応する。あるいは、メール（mhidaka@miyazaki-u.ac.jp）での対応も可能である。</p>
備考	<p>授業者の小学校教員としての経験を活かして、子どもがどこでつまづくのか、具体的な指導方法や声掛けはどうあるべきかなどについても伝える。</p>